

三浦小学校

「自分で、できる」

仲間と、できる」

校長 明神 通恭

ここ数日、やっと朝夕は涼しくなつて、休み時間にはグラウンドでサッカーや鬼ごっこに興じる子どもたちの姿が見られるようになりました。秋の訪れに、ほっと胸をなでおろしているところです。

さつそく、三浦小学校の教育について、一部ですが紹介させていただきます。

◆三浦小学校が大切にしていること【対話型授業】

言語能力の育成という課題克服に向けて【対話型授業】を行うようになって3年目となりました。今年も引き続き、この取組を進めているところです。

「アウトプット意識」という言葉がさまざまな場面で使われるようになりました。端的に言うところ「学んだり、考えたりしたことを自分の中に留めるのではなく、他者に伝えようとする意識」のことです。相手に理解し

やすいように伝えようとする工夫については「言語化」として本校でもこれまででも研究されてきました。これを一歩進めて、相手に伝えるつもりで、先生や友だちの話を聞いたとき、資料を集めたりすることで「インプット意識」が変化するという仮説に基づいて、子どもたちにこのような意識を働かせるために、「目的のある言語活動」を設定した対話型授業に取り組んでいます。



まだまだ発展途上ですが、気づいたこと・感じたこと・考えたことなどを友だちと交流しながら確かめたり、深めたりすることを繰り返しながら学ぶことで、相互に認め合い、成長し合うことができていると思います。

◆三浦小学校が大切にしていること【体験的な学び】

本校が大切にしていることの2つ目は「児童による直接体験」です。児童期こそ、教室での学びを実体験で活かす学習が必要だと考えています。そこで今回はニュージーランドの生徒との交流について紹介したいと思います。

昨年度に引き続き、フェアフィールドの生徒が三浦小学校に訪問してくるようになりました。このニュースを聞いて、子どもたちは大喜びです。

さつそく「訪問団をどのようにに歓迎するか」を考えました。5・6年生は小学校での生活を英語でプレゼンして校内を案内する、3・4年生は日本の昔遊びを楽しんでもらう、1・2年生は折り紙でメダルを作ってプレゼントする、そして三浦の伝統「花とり踊り」を披露したり、日本の伝統「お箏」の演奏を楽しんでもらったりしようということになりました。

これらの活動が決まるとさつそく、準備を行いました。休み時間を返上して発

表の練習をしたり、けん玉やコマ回しなどの練習も熱心に行いました。保護者の方も太鼓の指導をしてくれ、お箏の先生も特別に練習を見てくれました。



「相手の方に喜んでもらえるように、おもてなしをする」という1つの目標に



向けてみんなで協働した結果、【直接体験】を通じて、国境を越えた交流が生まれたことが、子どもたちには実感できたと思います。今後教室での学びと体験的な学びを通して深い学びを実現していきます。



田ノ口小学校

139年の歴史を

終えるにあたり

校長 東 卓志

◆はじめに

今年度、全校児童5名でスタートしました。学級は、6年生3名と2年生2名の飛び複式の1学級となっています。また、教職員は、学級担任1名と校長・会計年度任用職員2名の合計4名となっています。そのため、以前であればできていた活動にも影響が見られるようになったことから、令和8年3月末をもって休校することになりました。児童は少なくなり、十分な教育活動とまではいかないこともありますが、明治19年に開校してから139年という歴史ある本校の伝統と校風を引き継ぎながら、最後の教育活動に取り組んでいます。



◆学校経営について

本校の教育目標は、「豊かな心と何事にも自らが進んで取り組もうとする児童の育成」です。この目標を達成するために日頃から体験活動や多様な表現活動などを行い、豊かな心や創造性を育てる教育に努めています。



また、「主体的・対話的に学び合う児童の育成」を研究テーマとして、学習リダーによる授業の在り方や複式における指導方法の工夫など、小規模校であり、加えて複式校での課題に向けても取り組んでいます。その他にもふるさとキャリア教育や地域の資源を生かした教育活動を行うことで確かな学力(知識や技能)を定着し、知的好奇心を喚起させ、さまざまな教育課題を解決しようとする児童の育成にも努めています。

◆多くの方々の支援による運動会

5月18日(日)、本校最後

の運動会を行いました。少ない児童数でいかに充実した運動会を行うのか、児童と保護者、学校とで考え、昨年度よりも保護者種目や一般種目を増やして行うことになりました。

まず、最初の100m走では、前日の雨の影響もあり、児童らは足を取られながらも転ばぬよう走りまわりました。そして、「南中ソーラン」では、保護者や中学生・高校生などが参加し、盛大に踊りを披露してくれました。また、昨年度に引き続き行った防災クイズも多くの方々の参加がありました。3位までの入賞者には町から提供いただいた景品を渡すなど、おおいに盛り上がりまわりました。

地域の方々をはじめ、卒業生などが種目への参加だけでなく、アナウンスや準備、あと片付けにも積極的に参加してくるなど、みなさんの支えもあり、無事に終えることができました。



◆黒潮町の魅力について

学ぶふるさと教育

総合的な学習の時間やふるさとキャリア教育では、グリーンレモンの学習をはじめサーフィン教室などでするさとの産業や魅力について学ぶ取組を行っています。

6月19日(木)、



J A幡東営農センターと町農業振興課の担当者から、本校で育てているグリーンレモンについて教わりました。

児童らは、生育方法や肥料のやり方などについて学習しました。また、7月14日(月)には、生産者のもとを訪ね、収穫作業を体験しました。栽培に関することや商品としての活用方法なども教えてもらいました。

今年度は、本校にあるレモンの木にも大小10個のレモンが実っており、児童らは、収穫できる日を楽しみにしながら日々の成長を見守っています。

7月23日(水)は、延期となっていたサーフィン教室を全児童で行いました。

最初に全員で浜のゴミ拾いを行いました。活動はわずか10分くらいでしたが、町の小ゴミ袋3袋がすぐにいっぱいになりました。サーフィンの講師によると「ゴミ拾いをしてすぐにゴミが流れ着いており、特にプラスチックごみが多い」とのことでした。

いよいよサーフィン体験。6年生は、2年目ということもあり、すぐに波に慣れ、波乗りを楽しみました。2年生は、サーフィンはできませんが、ライフジャケットを着用し、沖合から岸に向けて波に乗る遊びをしました。

サーフィン終了後は、6年生が浮津海水浴場の監視員さんや講師に黒潮町の良さや魅力などについて、聞き取りを行いました。



田ノ口小学校は、残すところ5カ月程になりました。歴史ある本校の1ページを輝かしいものとなるよう児童と保護者、教職員が一丸となって頑張っていきたいと思っています。